

(3) 学内デジタル化推進による学修環境充実について

コロナ禍における「感染防止と学修機会の確保の両立」に向け、デジタル技術を活用した対面授業と遠隔授業の効果的实施等による質の高い教育の提供を実現するとともに、学生同士の交流、遠隔授業実施にあたっての教員の負担軽減を図り、大学におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）にもつなげる。

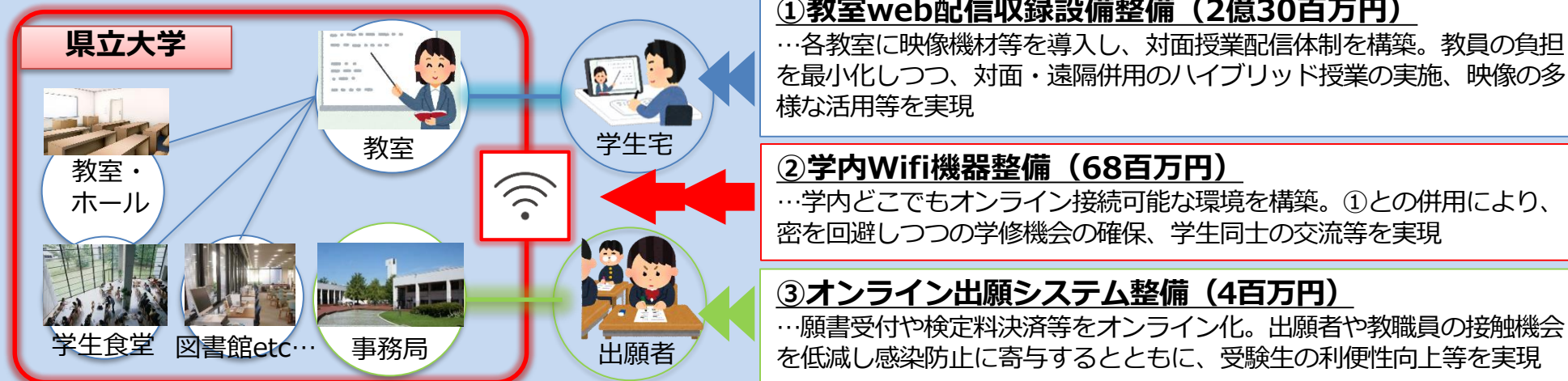
<現状・課題>



- 多数の学生・教職員が密に出入りする大学内の感染リスクの高さ
- 遠隔授業が恒常化し、学修面での有効性が認められる部分もあるが、学生・教員間の意思疎通等に課題
- 義務教育や企業等におけるデジタル化が加速。大学でもデジタルネイティブ世代への対応が必要

○全体事業費：3億3百万円

<事業概要・イメージ図>



今後は、さらに学修管理システム（LMS）の導入、学内ネットワークの分離・増速等の高度なデジタル化を推進し、学修環境の充実を図っていく予定